

# 平成28年度 学校経営方針

平成28年4月13日  
練馬区立大泉北小学校  
校長 内木 勉

## 【大泉北小学校 教育目標】

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| ○心の豊かな子ども      | …心の教育 思いやり 自己肯定感      |
| ○よく考える子ども      | …言語活動 言語環境 思考力・判断力    |
| ○みんなと力を合わせる子ども | …協力 かかわり合い            |
| ◎健康で根気強い子ども    | …たくましい心と体 体力向上 心と体の健康 |

4つの視点から、6年間の小学校教育を通して「知・徳・体」のバランスのとれた自立した子供を育てる。

## 【学校の教育目標を達成させるための基本方針】

### ◇児童が楽しく登校し、満足して下校する学校づくりの推進

- ・できる喜び、かかわり合う喜び、認められる喜びを味わえる学校づくり

### ◇教職員が力を合わせて働く学校づくりの推進 『チーム大北』『協働』

- ・One for All, All for One. 組織の中の役割の自覚、みんなのために動ける組織
- ・複数の目で児童を見守り育てるとともに、組織としての対応力の向上
- ・やりがいを感じられる学校、この学校でよかったと感じられる学校

### ◇開かれた学校づくりの推進

- ・積極的に地域と連携し、保護者や地域から信頼される学校づくり
- ・さまざまな方法で情報発信に取り組み、教育の見える化を進める
- ・保護者や地域の方々が気軽に足を運べる学校づくり

## 【学校の教育目標を達成させるための取組】

### 1. 基礎・基本の確実な定着と学力の向上を図る

- ①習熟度別学習、チーム・ティーチングなど個に応じた指導の充実
  - ・全国、都、区の学力調査の分析
  - ・習熟度別指導ガイドラインに沿った指導計画、東京ベーシック・ドリルの活用
  - ・家庭と連携した学習習慣（大北スタンダード）、読書習慣の確立
- ②研究・研修の充実による教員の授業力の向上
  - ・児童が「わかる・できる・楽しい」と感じられる授業づくり
  - ・授業のねらいなどの「見える化」の推進と評価と支援の一体化
  - ・教員が互いに授業を見合う・見せ合う体制づくり

## 2. 心豊かで根気強い児童を育てる

- ①児童一人一人のよさを認め、個性を伸ばし、自己肯定感を高める
  - ・「良さ」ではなく「よさ」、他人と比べたものではなく、児童のもつ力そのもの
  - ・よさに気づき、認め、活かす
  - ・認められる体験、達成体験等の積み重ねから自己肯定感の向上へ
- ②人権尊重の理念のもと、全教育活動で心の教育を推進
  - ・児童理解に基づいた生活指導の充実
  - ・いじめ防止基本方針等に基づいた、課題への未然防止、早期発見、迅速な解決
  - ・互いに認め合い、協力し合う活動の充実
  - ・特別な教科「道徳」の実施を見据えた道徳教育の取組と生命尊重の態度の育成
  - ・あいさつ、言葉遣いなどの言語環境の充実
  - ・児童の不安や悩みの解消や不登校児童に対する校内体制や指導体制の充実
- ③体力の向上と健康の保持増進
  - ・校内研究を通じた体力の向上と運動の日常化
  - ・食育や足育を中心とした健康教育の推進
  - ・食物アレルギー対策、アレルギー対応研修の実施
  - ・家庭と連携した生活習慣の確立（大北小スタンダード）
  - ・オリンピック・パラリンピック教育の展開と教育実践

## 3. かかわり合いを通して、社会規範を身に付ける

- ①人間関係の中で育まれるコミュニケーション能力と規範意識の育成
  - ・体育的行事、文化的行事、5・6年生の宿泊を伴う行事への取り組み
  - ・儀式的行事（入学式、卒業式、離任式、始業式、終業式、修了式など）
  - ・けやき班での遊びや活動
  - ・クラブ活動（4～6年）、委員会活動（5・6年）
  - ・「大北小っ子の一日」「大北小のやくそく」「大北小スタンダード」の徹底
- ②学校・家庭・地域との連携と開かれた学校づくりの推進
  - ・月1回の授業公開（運動会等の行事も含む）
  - ・学級通信、学年だより、学校だより、ホームページ等による情報発信の充実
  - ・PTA 活動との連携と学校評議員制度による学校関係者評価

## 4. 安心して安全な学校づくりの推進

- ①子どもたちが安心して通える学校づくりの推進
  - ・毎月の避難訓練(火災・地震・不審者)や安全指導、防災教育、安全点検の実施
  - ・各学年の実態に応じた、児童自らが自分を守る意識を高めるセーフティ教室
  - ・児童通学案内員との連携による登下校時の安全確保
  - ・学校情報配信システム（緊急配信メール）の積極的な活用
  - ・情報モラル学習、SNS 学校ルールの策定など、情報化社会の中での規範意識